

「賀古駅家、発掘ものがたり」 21 <謎解きは終わらない>



<隣の駅家「(仮称) 邑美駅家」(長坂寺遺跡、明石市長坂寺) >
逆に、賀古駅家に関してわからないことも、まだまだたくさんあります。

①日本最大の駅家について

今回の発掘調査では、賀古駅家が日本最大の駅家となったころ(平安時代、10世紀頃)の出土品がまったく見られませんでした。このころの賀古駅家はどのようなものだったのか(どこにあったのか)、今後の調査が期待されます。

②賀古駅家の駅館院内について

駅館院内部の様子は全く不明です。現在、そのほとんどがオークラ輸送機さんの駐車場となっています。この場所についても協力を得て地中レーダー探査を実施しました。すると「何かありそう」という結果がでています。建物の基壇などは削平されていますが、地中には駅家の痕跡がまだ封印されている可能性があります。

③教信沙弥のころの賀古駅家

教信沙弥は賀古駅北に住み、866年に亡くなっておられます。沙弥がいらっしやったころの様子も全く不明です。

④駅館院以外の賀古駅家

駅家は中心施設の駅館院だけでなく、いろんな多くの雑舎群からなりたっています。それらは場所さえもわかっていません。「うまや」といわれても馬が存在した痕跡は見つかっていません。

坂元遺跡は駅家と関係する集落と考えられており、駅家を支える大きな社会がこの地に営まれていたようです(駅家の里と呼ばれていた)。

⑤周辺の駅家との関係

播磨の駅家は隣接する駅家と合併、再編を繰り返している。ほかの駅家と比較することで、より駅制の実態に迫ることができそうです。

兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘